

〈10年後の大学ビジョン〉

プラネタリーヘルスの実現を目指し、世界を牽引する大学へ

— グローバルな課題解決のためのイノベーションを生み出す大学経営改革 —

長崎大学は、人類と地球の抱える多様で相互に関連する問題群に取り組む **超領域型融合研究** を推進し、科学的知見に基づく解決策を見出し、その社会実装を進める総合知人材を育て、**プラネタリーヘルスの実現*** を牽引する

*地球温暖化や水資源・食糧問題・パンデミックの発生等の地球上の問題を解決するため人間の意識・行動・価値観の変容を促す新規概念であり、地球の健康を支えるための答えを探る取り組み。



Planetary Health,
nagasaki university

特色ある研究領域と本学の強み

- ① 感染症研究を中心としたグローバルヘルス領域 (BSL4研究施設、ロンドン大学とのJoint PhD Degree Program)
- ② 原発事故・核兵器廃絶に取り組むグローバルリスク領域 (福島復興支援事業を含む)
- ③ COI-NEXTブルーエコノミーを展開するグローバルエコロジー領域
- ④ 駐在型海外拠点 (ケニア・ベトナム・ブラジル)
- ⑤ プラネタリーヘルス学環: Doctor of Public Healthを世界に輩出 (外務省、厚生労働省、JICA、NCGM・NIIDとの強い連携)

研究力向上の戦略概要

- ① 持続的イノベーションを生み出す経営基盤強化
- ② 長崎・宮崎・鹿児島・西南九州3大学連携を起点とした国際ネットワークの形成と国際共同研究推進
- ③ グローバル研究推進体制の強化と支援人員増強
- ④ 大学院生および若手研究者確保のための支援体制、研究環境の整備
- ⑤ 国際共同研究強化のための海外拠点の増設と機能強化
- ⑥ 3領域に研究センターを設置し超領域型融合研究を展開

取組① 経営基盤の強化

1. アドバイザリーボードの設置 (海外機関・企業の有識者含む)
2. Development Office の設置によるファンドレイジング
3. 海外拠点の活用
4. 国際アルumnネットワークの拡大
5. ネーミングライツ、不動産活用など収益事業の強化・拡大
6. エンダウメント投資の拡大

取組② 若手研究者 獲得・育成

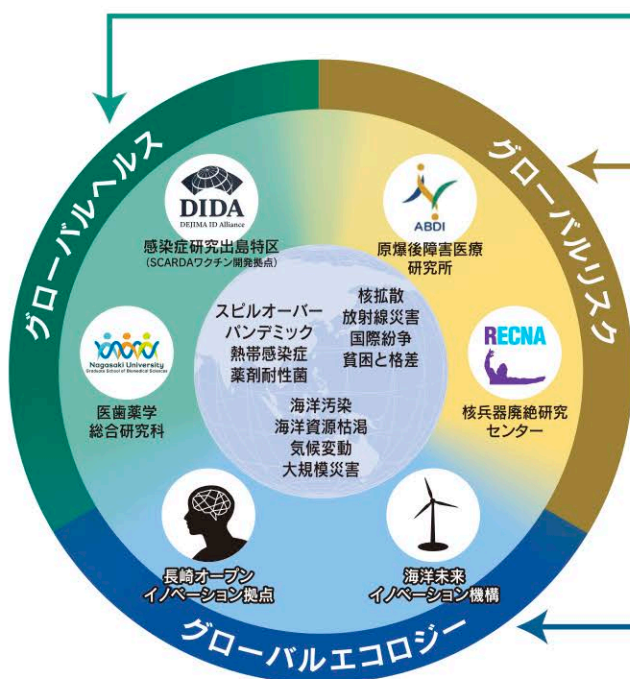
1. 若手研究者の重点的支援
2. 研究時間の量と質の確保
3. キャリアパス支援
4. 博士課程学生の処遇改善
5. 外国人研究者・留学生支援

取組③ 研究支援体制の強化

1. URAの重点的配置・育成
2. 海外グラント支援部門設置
3. 国際化対応事務職員の増加
4. 共用設備の確保・技術職員の育成
5. 融合研究ファシリテーター教員配置
6. 海外リエゾン教員配置

取組④ 総合知人材育成 研究科等連係課程プラネタリーヘルス学環

- 第2の学位プログラム：グローバルリスク博士課程 (定員5名) 令和8年開始
第3の学位プログラム：グローバルエコロジー博士課程 令和11年開始に向けた準備

ヘルス・リスク・エコロジーの
超領域型融合研究を推進

各領域ごとのミッションと具体的取り組み

取組⑤ パンデミック予測研究強化

感染症専門家集団に加え、データサイエンス、教育分野の人材が協働して次のパンデミックに備え、**持続可能な人類社会を構築**

1. パンデミック総合研究センター設置 (施設整備事業)
2. 宮崎大学・鹿児島大学とのスピルオーバー研究協働チーム形成
3. 気候変動の健康影響研究基盤構築 (JAMSTEC、東京大学大気海洋研究所との連携構築)
4. 国際感染症情報データ部門の設置
5. 感染症リテラシー部門の設置

取組⑥ グローバルリスク国際ネットワーク整備

感染症・核拡散・国際紛争・地球規模の環境変化などによりグローバルリスクが深刻化、複雑化するメカニズムを解明し、解決に資する画期的政策を**世界に発信・実現**

1. グローバルリスク研究センター本格稼働
2. 国際機関・海外のリスク研究所との連携協定締結
3. 国際会議の開催誘致
4. 福島未来創造支援研究センターとの協働並びに福島国際研究教育機構F-REI・福島県立医科大学・福島大学との連携強化
5. 鹿児島大学地域防災教育研究センターとの社会インフラレジリエンス研究推進

取組⑦ イノベーションと社会実装の加速

海洋資源・食料・エネルギー・水・炭素の循環型社会構築のための新たな発想での**イノベーション**を行い、地球の健康を守る科学を推進し、社会実装を実現

1. 地球未来オープンリサーチセンター設置
2. 里海カーボンニュートラルモデル構想加速
3. 宮崎大学GX研究センターモデルとの協働による洋上風力一潮流一地熱一太陽光発電一蓄電一水素製造技術の連結
4. 宮崎大学農学部海洋生物環境科学科との共同研究
5. 水資源循環総合研究チームと森林緑地環境研究の融合

実施体制

外部有識者会議
アドバイザーボード

プラネタリーヘルス実現戦略本部

学長、理事、学環長、特区長

大学間連携推進本部 (3+3会議)

学長 & 研究担当理事

Development Office

ファンドレイジング ファンドマネージャー ファンドレイザー

財政基盤の強化

学長直轄の戦略立案機能強化

グローバル経営戦略企画室

世界トップ戦略・財政改革戦略・社会実装推進戦略
研究戦略企画担当理事・国際担当理事・広報戦略本部長・事務局長など

西南九州3大学プラネタリーヘルス推進協議会

協働体制構築(人材交流、施設設備共有化、
情報共有)および進捗管理



URA
× 10名



海外リエゾン教員
× 3名



融合研究ファシリテータ
× 3名



PD/Technical Staff
× 6名



ファンドレイザー
× 2名

長崎オープン イノベーション拠点

長崎県産官学ネットワーク強化事業
航空機・炭素・ライフサイエンス・IoT半導体等

URA等配置による支援体制強化

地域中核イノベーションハブ

産学官連携・知的財産部門

産学官連携支援・発明相談・知財管理

アントレプレナーシップ部門

スタートアップ支援等

URA等配置による支援体制強化

研究開発推進機構

学術研究支援部門

異分野融合・グラント申請・論文作成など
研究活動活性化

海外グラント申請支援部門

国際共同プロジェクト立ち上げ支援

共同設備利用推進管理部門

研究機器共同利用促進

研究インテグリティ部門

インテグリティ、リスク管理・利益相反・
研究不正防止等の管理・教育

社会実装支援

融合研究推進

グローバルリスク領域

多文化社会学研究科 福島未来創造支援研究センター 経済学研究科

核兵器廃絶研究センター 原爆後障害医療研究所

パンデミックとリスクコミュニケーション
経済リスクとパンデミック
生物兵器と核リスク

温暖化と災害リスク
AIと戦争リスク
国際紛争と原発リスク

グローバルリスク研究センター

海外拠点

アフリカ(ケニア)
アジア(ベトナム)
中南米(ブラジル)
欧州(オランダ)

融合研究

温暖化と感染症・健康被害予測
野生動物モニターとスピルオーバー感染対策

グローバルヘルス領域

パンデミック総合研究センター
(統合感染症研究棟)
地域中核・特色ある研究大学の施設整備事業

医歯薬学総合研究科

熱帯医学研究所

熱帯医学・グローバルヘルス研究科

高度感染症研究センター

BSL-4
施設



for
Planetary Health,
NAGASAKI UNIVERSITY

大学院博士課程(研究科等連係課程) プラネタリーヘルス学環

第3の学位プログラム: グローバルエコロジー博士課程

第2の学位プログラム: グローバルリスク博士課程

第1の学位プログラム: Doctor of Public Health

6研究科の教員が参画し、完全英語化した学位プログラムを実施

地球未来オープンリサーチセンター

グローバルエコロジー領域

総合生産科学研究科

海洋未来イノベーション機構

産学連携上風力
人材育成
コンソーシアム

COI-NEXT
本格型

科学的エビデンスを
政策立案・社会システ
ムデザインに繋ぐ総合
知人材を世界に輩出

トップレベル研究者招聘

若手研究者派遣

クロアボ人材交流

国際共同研究推進

海外ネットワーク

- ◎ ロンドン大学LSHTM(英国) * BSL-4施設
- ◎ 保健安全保障庁ポーションダ研究(英国)*
- ◎ ベルンハルト・ノット熱帯医学研究所(ドイツ)*
- ◎ ボストン大学国立新興感染症研究所(米国)*
- ◎ パスツール研究所(フランス)
- ◎ ストックホルム国際平和研究所(スウェーデン)
- ◎ Future Earth
- ◎ 国連軍縮研究所
- ◎ 国境なき医師団
- ◎ 国際原子力機関
- ◎ WHO世界保健機関
- ◎ 締約国会議(COP)

国内ネットワーク

- ◎ 国立感染症研究所(NIID)
- ◎ 国立国際医療研究センター(NCGM)
- ◎ 福島国際研究教育機構(F-REI)
- ◎ 産業動物防疫コンソーシアム
- ◎ 海洋研究開発機構(JAMSTEC)
- ◎ 東京大学大気海洋研究所
- ◎ 大阪公立大学
- ◎ 北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター

URA等配置による支援体制強化

グローバル連携機構

海外拠点部門

拠点運営及び活用支援

国際連携企画部門

有力大学との
戦略的パートナーシップを締結

研究キャリア支援室

外国人研究者のキャリア支援

地域中核・特色ある研究大学強化促進事業

令和6年度予算額（案） 2億円
（前年度予算額 2億円）
※令和4年度第2次補正予算により地域中核研究大学等強化促進基金に1,498億円を措置



背景・課題

- ✓ 我が国全体の研究力の発展をけん引する研究大学群の形成のためには、大学ファンド支援対象大学と地域中核・特色ある研究大学とが相乗的・相補的な連携を行い、共に発展するスキームの構築が必要不可欠
- ✓ そのためには、地域の中核・特色ある研究大学が、特定の強い分野の拠点を核に大学の活動を拡張するモデルの学内への横展開を図るとともに、大学間で効果的な連携を図ることで、研究大学群として発展していくことが重要

【国際卓越研究大学の研究及び研究成果の活用のための体制の強化に関する法律案に対する附帯決議（衆・参）】
四 政府は、我が国の大学全体の研究力の底上げを図るため、個々の大学が、知的蓄積や地域の実情に応じた研究独自色を発揮し、研究大学として自らの強みや特色を効果的に伸ばせるよう、国際卓越研究大学以外、特に地方の大学への支援に十分配慮することとし、地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージの大幅拡充等により、十分な予算を確保すること。

【経済財政運営と改革の基本方針2023（令和5年6月閣議決定）抄】
・国際卓越研究大学と経営リソースの拡張・戦略的活用や研究者等のキャリア形成面を含め相乗的・相補的に連携した車の両輪として、地域の中核・特色ある研究大学の多様なミッションの実現に向けた抜本的な機能強化を図る。

事業内容

- ✓ 研究力の飛躍的向上に向けて、強みや特色ある研究力を核とした戦略的経営の下、大学間での連携も図りつつ、研究活動の国際展開や社会実装の加速・レベルアップの実現に必要なハードとソフトが一体となった環境構築の取組を支援（（独）日本学術振興会（JSPS）に基金を造成し実施）
- ✓ その際、文部科学省は、JSPSと連携しつつ、**採択大学の戦略の実現に向けて外部の専門家や専門機関を活用した伴走支援を実施**

【参考：「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」の支援内容】

- 事業実施期間：令和4年度～（5年間、基金により継続的に支援）

- 支援件数：最大25件程度

- 支援対象：

強みや特色ある研究や社会実装の研究拠点（WPIやCOI-NEXT等の拠点形成事業、地方自治体・各府省施策、大学独自の取組等によるもの）等を有する国公私立大学のうち、**研究力の向上戦略を構築した上で、全学としてリソースを投下する大学**

- ※ 5年度目を目途に評価を行い、進捗に応じて、必要な支援を展開できるよう、文部科学省及びJSPSにおいて取組を継続的に支援（最長10年を目途）

- 支援内容：

A) 戦略的実行経費（最大25億円程度／件）

研究戦略の企画・実行、技術支援等を行う専門人材の人件費、調査その他研究力の向上戦略の実行に必要な経費

B) 研究設備等整備経費（最大30億円程度／件）

研究機器購入費、研究・事務DX、研究機器共用の推進を含む研究環境の高度化に向けて必要となる環境整備費等

地域中核研究大学等強化促進基金：1,498億円

【支援のスキーム】



- 強みを有する大学間での連携による相乗効果で、研究力強化に必要な取り組みの効果を最大化
- 特定領域のTOP10%論文が世界最高水準の研究大学並みに
- 強みや特色に基づく共同研究や起業の件数の大幅増加、持続的な成長を可能とする企業や自治体等からの外部資金獲得

- ✓ 研究を核とした大学の国際競争力強化や経営リソースの拡張
- ✓ 戦略的にメリハリをつけて経営リソースを最大限活用する文化の定着

**我が国の科学技術力の飛躍的向上
地域の社会経済を活性化し課題解決に貢献する研究大学群の形成**

（担当：科学技術・学術政策局産業連携・地域振興課）